

# 学びのありかたが大きく変わる！ 金融教育の現場から考える オンライン授業の利点と課題



新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、大学などの教育機関において、インターネットによるオンライン授業（遠隔授業）が活用されるようになりました。時間や場所にとらわれずに学習の機会を提供できるオンライン授業は、学びのありかたを大きく変えようとしています。今回、大学において金融教育の関連科目を実際にオンライン授業で行っている3人の先生方に、その利点と課題、そして今後の可能性についてお聞きしました。

## 経験のないオンライン授業 戸惑いと挑戦

2020年の春学期、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するために、多くの大学がキャンパスにおける対面授業の延期やオンライン授業（遠隔授業）の実施などの対応を迫られました。実際、文部科学省の調査（2020年7月1日時点）でも、オンライン授業を全面的に実施している大学などが23・8%、対面授業とオンライン授業を併用している大学などが60・1%となっています（図表）。

【図表】大学等における対面授業とオンライン授業の実施状況について

	対面(面接)授業	オンライン(遠隔)授業	両授業を併用
国立大学	1校 (1.2%)	30校 (34.9%)	55校 (64.0%)
公立大学	8校 (7.8%)	22校 (21.6%)	72校 (70.6%)
私立大学	145校 (17.6%)	187校 (22.7%)	492校 (59.7%)
高等専門学校	19校 (33.3%)	15校 (26.3%)	23校 (40.4%)
(全体)	173校 (16.2%)	254校 (23.8%)	642校 (60.1%)

※2020年7月1日時点で授業を実施していると回答した学校数(1,069校)を母数としている。  
(出所) 文部科学省「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況」を基に作成。

[https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt\\_kouhou01-000004520\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf)

オンライン授業とは、WEBシステムなどを利用して、パソコンやスマートフォン、

タブレットで教員と学生をつないで行う遠隔授業のことを言います。

文部科学省の資料によれば、その類型は大きく分けて、「同時双方向型」と「オンデマンド型」の2種類があります（文部科学省「大学における多様なメディアを高度に利用した授業について 資料6」。「同時双方向型」では、教員はWEB会議システムなどを活用して決まった時間に授業を配信し、学生はリアルタイムで受講します。対面授業の環境に近く、教員と学生は映像や音声のやりとりを通じて、双方向のコミュニケーションを図ります。これに対して、「オンデマンド型」では、教員は作成した教材や動画などを大学が管理するWEBサイトなどにアップロード（掲載）します。学生がそれにアクセスして学習した後、教員は学生からの質疑への回答、添削指導などを行います。今回お話をうかがった、慶應義塾大学で応用経済理論と経済政策を教える藤田康範教授と、学習院大学で国際金融論を教える清水順子教授は「同時双方向型」を、また、東京理科大学でミクロ経済学やゲーム理論を教える梅澤正史教授は「オンデマンド型」を実施しています。

お話をうかがった3人の先生方は皆、従来の対面授業からオンライン授業への切替えについて、当初は、戸惑いを覚えつつも、実施に踏み切りました。藤田教授は次のように回想します。

### 学習院大学 経済学部経営学科 清水 順子 教授



「私はスマートフォンも使いこなしていないし、SNSも利用しません。対面授業で学生の反応を見ながら、板書をして授業を展開するのが得意だったので、かなり戸惑いました。しかし、オンライン授業をやるなら対面授業を超えるようなものを作りあげてみよう、気持ちを切り替えました。」

梅澤教授も「当初は、教育の質を確保できるのかとても不安でした」と語ります。「しかし、学生が通学できない状況でもしっかりと学べるように、私を含め多くの先生方が時間と労力をかけて、オンライン授業の方法を「から学びました」。

## 教員自身が学び、 授業内容に反映 学生を飽きさせない工夫

藤田教授が担当する「金融リテラシー」の科目では通常、外部講師を招きながら、家計管理や保険など生活設計に必要な幅広い領域の金融知識について授業を行って



います。しかし新型コロナウイルス感染症拡大が続く中では、外部講師をなかなか招くことができず、藤田教授がすべての講義を行うこととなり、外部講師から提供を受けた資料を基に、オンライン授業用の教材を改めて作成しました。そのとき心掛けたのは、「学生を飽きさせないこと」です。

「正直、大変ですよ！1週間かけて、授業のテーマに関連するコンテンツのうち、学生が関心を持ちそうなものを調べまくって、講義用スライドなどの教材に盛り込みます。対面授業と比べて、テレビやゲームなど学生への誘惑が多いですから、それに負けない面白い授業を行うために、日々悩んでいます」。

そして、授業の一体感を醸成するために、さまざまな工夫をしました。

「学生たちの入力した言葉が、授業の画面に次々と流れて表示される『コメントスクリーン』という機能を利用したのです。授業の途中、『この問題分かる？』と問い

かけると、何百人もの学生の意見が一斉に画面に流れるなんて、対面授業では決してできません。教室の仮想空間にアバター（WEBなどに登場させる自分の分身キャラクター）を登場させて講義させることも試みました。どれも学生たちに、かなり評判がよかったですね」。

約300人が履修する「国際金融論」を担当する清水教授は、対面授業では学生を授業に集中させるため、講義用スライドを使った説明は抑え、板書を中心に進めることで、ノートをきちんと取らせていました。しかし、オンライン授業では学生を飽きさせないよう、教材の見せかたに工夫を凝らし、板書が必要な場合には画面を切り替えて表示させるなど、臨場感溢れる授業を展開しました。

「学生たちを、パソコンの前で90分間集中させるために、教材として使用可能な映像資料を探したりしました。慣れていないこともあり、かなり大変ですが、『オンラインでも、対面授業と同じか、それ以上

上に質の高い授業を提供できる』と胸を張って言いたいので、資料作成には多くの時間を割きました」。

オンデマンド型を実践する梅澤教授のこだわりは、「学生の疑問をリアルタイムで解決すること。担当する『ゲーム理論』の授業は、2時限を連続して行います。1時限目はオンデマンド型で、梅澤

教授が作成した講義の動画を、学生が視聴します。演習問題を解く2時限目では、WEB会議システムを活用し、学生の質問にリアルタイムで答えます。

「講義の動画では自分のペースでじっくりと学び、疑問はその場で解決すること、理解を深めてもらいたいです」。

### 学習効果や意欲を高める オンライン授業

オンライン授業による学習効果について、現時点では、正確な効果測定は難しいとしつつも、3人の先生方は一様に「高いと言えるのではないかと評価します。まず、『授業の出席率は、対面授業よりはるかによい』と口を揃えます。

「私の授業は朝9時開始なので、家が遠い学生にはかなりつらいと思います。オンライン授業により通学時間がなくなることは、学習環境に大きな変化をもたらしたのではないのでしょうか」と梅澤教授は言います。

また、オンライン授業における「情報の共有性」も、学習効果に良い影響を与えました。清水教授はこう語ります。

「優秀レポートを紹介し、大学の共有オンラインスペースでも閲覧できるようにしているのですが、自分のレポートとの違いを理解して、次のレポートに生かした学生も多くいました。オンライン授業

ならではの学習効果だと思います」。

さらに、清水教授は、学生のプレゼンテーション能力の向上と、積極的な学習意欲にも注目しています。

「画面越しの発表は、資料を入念に準備しなければ正確に伝わりません。学生たちははしつかり準備をし、対面とは違う適度な緊張感の中、発表をやり切ることで、プレゼン能力が短期間で飛躍的に伸びました。学生同士の間でも、活発に意見が交わされていましたね」。

藤田教授は、オンライン授業で学生が自主的に学び合う現象が起きたことに驚いたと言います。

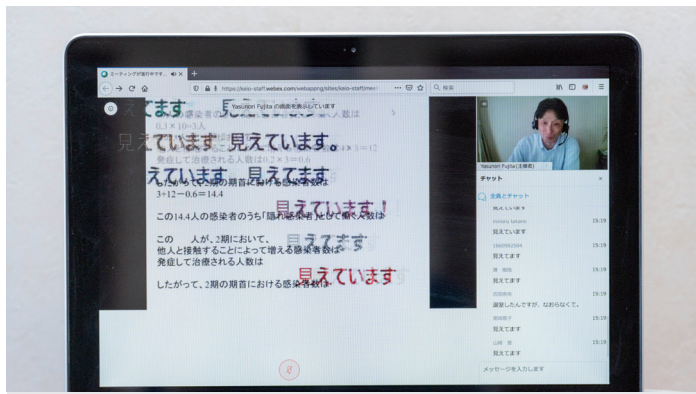
「授業中に問題を出したとき、ある学生が『分かりません』とコメントスクリーンに投稿したのですが、別の学生がチャット機能を使い解き方を書き込んでくれたのです。私が指示したのではなく、まったく自発的なんです。すると『理解できました！』というコメントが次々と投稿されました。オンライン授業では大人数の授業であつて







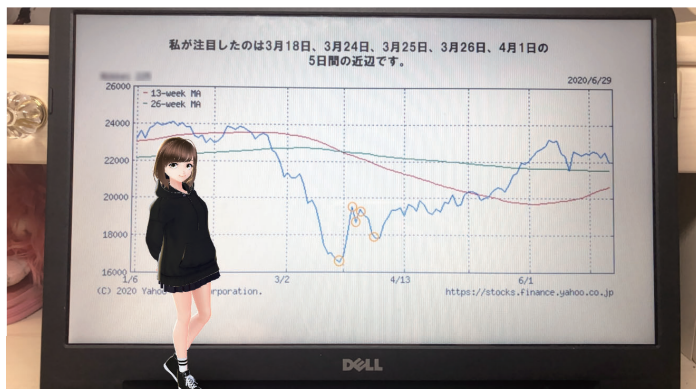
清水教授はタブレット端末も用意。板書が必要な場面は画面を切り替えて、タッチペンで手書き入力し、スクリーンに表示させる。



「コメントスクリーン」を活用した藤田教授のオンライン授業の画面。受講する学生たちが投稿すると、画面に言葉が流れていく。



清水教授のゼミナールでは、授業の途中でグループ分け機能を活用。学生は、少人数で議論することができる。



藤田教授はアバターも使用。藤田先生の分身キャラクターが登場して、そのキャラクターが講義を行う。

## 今後の課題は 学習環境の確保と 評価の公平性

も、知識や情報を瞬時に共有でき、学び合えるのです」。

一方、オンライン授業についての課題も明確になってきました。まずは、通信機器や通信量など物理的な環境面です。清水教授は、学生たちのオンライン授業を受ける環境についてこう語ります。

「パソコンなどの通信機器と、授業の通信量に耐えうるインターネット環境が必要不可欠です。しかし、学生全員がその環境を揃えられるとは言い切れません。対面授業なら教室に来さえすれば、平等に授業を受けられますが、学生の学習環境によって差が出てしまうのは、オンライン授業の課題ですね」。

また梅澤教授は、オンライン授業には学習意欲の差によって、学びの習熟度に影響を与えてしまう可能性がある指摘します。

「対面授業では、私が学生の机を回っているの、学生は誰でも気軽に質問できます。しかしオンライン授業では、WEB会議システムで自ら教員に連絡して、質問しなければなりません。そのハードルは、学習意欲の高い学生には低く、学習意欲の低い学生には高くなりやすく、それが習熟度の格差を生むのではないかと懸念しています」。

そして、オンライン授業での最大の課題は、「どのように『公平な評価』を行うかではないか」と、梅澤教授は語ります。

「パソコンで授業を受けていても、スマートフォンなどで友達と連絡は取れますので、テストの解答やレポートの内容を短時間で教え合うことは可能です。教育の場において、公平な評価は非常に重要です。オンライン授業という環境の中で、学生の理解度や習熟度を正しく評価できる方法の確立は、急務と考えています」。

## オンライン授業で広がる 自由な学び

初めての経験に戸惑い、試行錯誤しながらもオンライン授業を行う3人の先生方は、異口同音に「オンライン授業は大きな可能性を秘めている」と語ります。

梅澤教授は、「今後、対面授業に戻っても、オンデマンド型を併用することで、意欲のある学生は、自分が不得意なところを何度でも学べ、さらに高いレベルまで到達できるはずです。そしてライブスタイルに合わせて、時間と場所を選ばずに学べる授業を大学側が提供できれば、より多くの人々が学びに参加できるはずです。大学の役割の可能性が、一気に広がっていくのではないのでしょうか」と語ります。

「オンライン授業は、教育のありかたを根本から変える可能性があります」と語るのは藤田教授です。

「オンライン授業なら、通信環境さえ整



WEB会議システムを使って、学生の質問に答える梅澤教授。複数の学生から同時に質問が来ても、システムの機能で順番に答えられる。

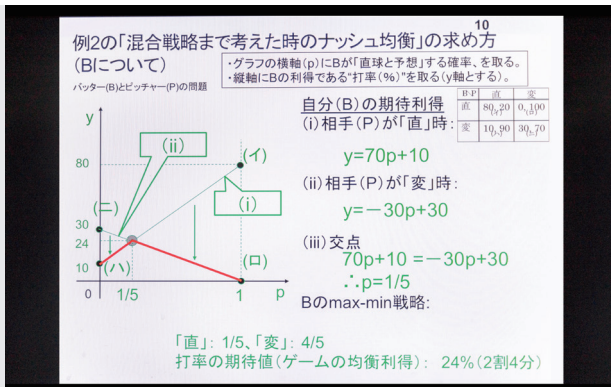
えば、視聴する学生の上限をかなりの数まで増やせます。例えば、教科の基礎となる教材を全国の学生に配信します。質の高い基礎学習をオンラインで学び、専門的な内容などより高度なレベルを対面で学ぶ。そんな可能性を発想できるのも、オンライン授業の大きな魅力ではないでしょうか。」

清水教授も「日本の大学教育は今、分岐点に来ている」と語ります。

「オンライン授業が進めば、聴講者数の物理的な制約がなくなりますので、誰もが希望する大学で学べる時代が来るのかもしれない。」

新型コロナウイルス感染症の状況次第では、どのような形態の授業が行えるかは、どのような形勢が続く可能性があります。清水教授は、オンライン授業を中心に学んでいる学生たちに、こんなメッセージを語ってくれました。

「従来、大学の4年間は、キャンパスに通い、サークルや部活動、アルバイトで友達をつくる楽しい時期でした。しかし、このコロナ禍の時代には、勉学と人間関係づくりは分けて考えなければならぬかもしれません。勉学はオンライン授業でしっかり行い、人間関係づくりは地域など別の場所に求める。こんな時期だからこそ、若い皆さんには発想を転換して、どのような活動が自分たちの大学生活を有意義にするのかを、ぜひ考えてほしいと思います。」



梅澤教授のスライド。学生に配布する資料では緑の部分が空白で、学生は動画を視聴しながら埋めていく。

## お金の知恵を学ぶリンク集 ～金融学習ナビゲーター～のご紹介

「知るぽると」WEBサイトでは、本誌「くらし塾 きんゆう塾」をはじめ、さまざまなコンテンツを掲載しています。今回、ご紹介する「お金の知恵を学ぶリンク集～金融学習ナビゲーター～」では、金融広報中央委員会だけでなく、金融教育に携わる機関・団体・NPO法人等が提供している金融学習用の教材や事業を分かりやすく取りまとめています。くらしに役立つ身近なお金の知恵・知識の「入り口」として、さまざまな場面での学びや教育にぜひご活用ください。



学ぶ・教える対象者を「小学生(低学年)」から「高齢者」の9つに分けており、各対象者の教育目標や最低限身に付けるべき金融リテラシーに応じた教材・事業を探ることができます。また、教材・事業を提供する団体・法人等別に探すことができるほか、各団体・法人等のWEBサイトにもリンクしているため、直接、教材・事業について閲覧・ダウンロードできるようになっています。

そのほか、教材・事業の種類や難易度の目安などが一目で分かるよう、アイコンを用いるなどの工夫をしています。

詳しくは<https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/navi/>

スマートフォン、タブレットからはこちらから

